

ICTビジョン懇談会(第1回)議事要旨

1 日時 平成20年10月30日(木)13:00~15:00

2 場所 総務省7F 省議室

3 出席者 (五十音順、敬称略)

- ・構成員:岡素之(座長)、内田勝也、岸博幸、公文俊平、黒川和美、國領二郎、鳶信彦、妹尾堅一郎、野原佐和子、野村修也、松原聡、村井純、米倉誠一郎、ロバート・A・フェルドマン (計14名)
- ・総務省:鳩山総務大臣、鈴木総務大臣政務官、鈴木総務審議官、寺崎総務審議官、小笠原情報通信国際戦略局長、山川情報流通行政局長、桜井総合通信基盤局長、戸塚政策統括官、田中総括審議官、谷情報通信国際戦略局次長、武内総合通信基盤局電気通信事業部長、吉田総合通信基盤局電波部長、久保田官房審議官、阪本官房審議官、山根情報通信国際戦略局参事官、谷脇情報通信国際戦略局情報通信政策課長

4 議事内容

【ICTビジョンの必要性】

- ・ ICTのビジョンが社会をつくるといっても過言ではない。混乱している時こそICTビジョンで経済社会の在り方を提示していくべき。
- ・ 中期的な政策のロードマップの策定も大事だが、若い人達が30年後の日本に希望を持てるようなビジョンを描くべき。
- ・ IT戦略ではなくて、IT国際戦略を議論したい。インターネットがグローバルな環境を実現した今の時代には、ICTで個々の国や地域に具体的にどう貢献できるかが非常に重要。アフリカ向け戦略、中東向け戦略という個別の戦略があってしかるべき。
- ・ ビジョン策定を行うのは正しい姿勢だと思うが、この変革の時代にパラダイムの在り方を読み間違えると見当違いになるため、注意が必要。
- ・ ICTは社会の基盤であり、社会のビジョンを前提にICTのビジョンがあるべき。

【成長エンジンとしてのICT】

- ・ 日本の今後の成長のエンジンが何かを考えたい。ITとバイオを軸に復活したアメリカの例や、EUという制度設計により、様々なコストを削減しつつ5億人という市場を創出し、イギリスを中心に金融で高い成長率を記録したヨーロッパの例もある。
- ・ ICTは、少子化で労働力が大幅に減少している日本にとって、生活水準を維持する鍵となる。不在者投票のオンライン化など、ICTの導入で大幅に社会的コストが削減された例が諸外国にも数多くある。景気対策という観点で言えば、ICTほど良い景気対策はない。
- ・ 今後は、 $+ \alpha$ ($+0.5$) 次産業が鍵を握っている。例えば、和食は、第一次産業である農業が構造改革などで価値の高まった1.5次産業。他にも環境、省エネ技術、コンテンツやファッションなど注目分野もある。こういった既存産業の高付加価値化に、ICTは寄与できるのではないか。

【ICTビジョン策定の基本的な方向性】

- ・ ビジョンを描く際には、既存モデルを前提に量的拡大を目指す「成長(モデルポリッシュメント)」と、既存モデルを新しいモデルに変更して進む「発展(モデルチェンジ)」を使い分けることが必要。
- ・ 世界の潮流は、2004年のパルミサーノレポート以降、発展(モデルチェンジ)だが、我が国のICTビジョンを描く際、どちらを採用するのか真価が問われる。
- ・ ICTファンダメンタルズについて、既存の評価軸にないモノを積極的に打ち出していくべき。
- ・ 大切なのは、実現可能性であり、落とし込みがきっちり出来るビジョンでないと、単なる打ち上げ花火で終わってしまう。
- ・ 各種懇談会で非常に有益な議論をしているのだが、国民に伝わりにくい。特に利便性の実感などをPRするなどわかりやすいメッセージを届けることが必要。
- ・ ICTは変化の激しい分野であり、5年という時間軸は妥当。欲を言えば2011年までの政策の検証とその方向性(ベクトル)の見直しの是非も入れ込みたい。
- ・ ICTの利活用分野については、今までは様々な法制度や慣行を所与のモノとして議論してきたが、今回は一度こういった制度などを棚上げにして、

新たな積極的なビジョンを提示するべき。

- ・ 情報化社会というのは、socialがキーワードとなる。大切なのは、社会全体で知のゲームが行われることと、それを対象とするビジネスが興ること、さらにそれを支える経済基盤が整うこと。
- ・ 日本においてこれからのICTビジョンを考える際には、グローバルな情報空間をさらに発展させていく「Web. x. 0」に適切に対応してするとともに、世界で最も深刻な少子高齢化に突入しようとしている社会システムの生産性を、ネットとリアルワールドの直結によって、抜本的に向上しようとするユビキタスネットワーク化の具体化という方向性の定着に手を抜くべきではない。

【議論すべき具体的な事項】

- ・ ICTに放送やデジタルコンテンツを含めるのか。2015年を展望するには、放送や電波の在り方についてきちっとした整理が必要。
- ・ ICTで最も重要なのはコンテンツ。ネット権やフェアユースなどの制度的アプローチに加え、クリエイティブ産業創出など政策的なアプローチも必要。
- ・ 2011年から2015年ということであれば、モバイル機器のコンピュータ化、クラウドコンピューティングなども当然盛り込むことが必要。
- ・ 電力消費をいかに最小化(ミニマイズ)するかなど、エネルギー問題でのICTの利活用が重要。

【ICT産業の議論の方向性】

- ・ 日本の携帯産業が国際競争力を持たないのは、ガラパゴス化しているからではなくガラパゴス化が不十分だからという見方もある。ガラパゴス化を突き詰めるのも一つの手。
- ・ ICT産業という視点からは、今後のユビキタスソリューションの定着過程では、これまでの日本のICT産業のガラパゴス化の反省を踏まえ、常に、国際的な最終ユーザーに対する可視性という視点を忘れるべきではない。
- ・ 現在は各分野の専門家がモグラたたき的に対応している状態。包括的な見方をできる人が不足しているのではないか。
- ・ 現在、ICTの世界では、様々なグローバルなプラットフォームがネット上で

完結し情報空間を高度に洗練させていくWeb. 2. 0という方向性と、ネットが人々の生活やビジネスの場というリアルワールドにRFIDや携帯端末で直結していくユビキタスネットワーク化という方向性が混在。

- ・ ほとんどのユビキタスソリューションは、多くの実証実験やモデル事業による技術的なフィージビリティの実証を終えたところだと思うが、その情報は十分最終ユーザーには伝わっていない。供給サイドと最終ユーザーの間のキャズムを埋めていくのがユビキタスネット社会実現の重要なステップ。

【教育分野、電子政府・電子自治体】

- ・ 教育の現場でICTを活かすべき。
- ・ 教育現場でICTというと、とかくみんなと同じ意見を言うことに目がいきがちだが、大切なのは、みんなと同じ意見が言えることと同時にみんなと違う意見も言えること。パソコンが30ドルで作れる時代、日本の教育にICTをどれだけ入れ込めるかが大切。
- ・ 教育者としては技術人材の衰えが非常に懸念される。高校から大学への橋渡しができておらず、理数教育も含め、抜本的な教育の見直しが必要。
- ・ 政府が覚悟を決めるべき。e-govを進めるためにも、無謬主義は捨てた方がよいのではないか。
- ・ 自治体のシステムなどはコスト面などに再構築の余地がある。

【安心・安全社会の確立等】

- ・ 消費者主権についてであるが、とかく、100%の安心安全を約束するために過度の規制になりがちなので、注意が必要。
- ・ ネットの社会では伝統的な安全対策(ex.人海戦術)は通用しない。また、犯罪自体もCtoCのものが多くなっている。過度な規制をかけず、新しいネット社会に通用するスキームを作ることが必要。
- ・ インターネットには必ず負の面がつきまとうが、特に年配の人々に、始めはリスクで奇異なものとして受け取られ、怖がって使われない傾向にある。社会全体で既得権益を打破し、技術の芽を守ることも大切。

【その他(政府の役割等)】

- ・ 政府としてやらなければいけないのは、日本的こだわりの世界への売り込み支援。漢字や映像技術など、非常に世界に受けの良い日本文化などをしっかりと伸ばしてあげることが大事。
- ・ 中央集権の時代から、地域中心の地方分権の時代。一つの技術で日本全土を覆うには、日本はあまりにも多様化しすぎているので注意が必要。
- ・ 外国のパワーを使うのも大事。ウインブルドン化という言葉があるが、外国の優秀な人たちが活躍できるような場を東京に作るのも良いのではないかな。

(以上)